

## 喜勝印刷の福島復興支援に朗報

### 花柚子の菓子が 最 高 金 賞

喜勝印刷(株) (安佐南区伴南二丁目五-一五、久保知久社長) は、

東日本震災・原発事故風評被害の影響で廃業寸前に陥った食品会社の再建を支援するため、昨年四月から本社裏に所有する山林に商品の材料となる「花柚子」を植栽しているが、その花柚子を使用した菓子が二〇一四年度モンドセレクションで最高金賞を受賞した。

受賞した菓子は、久保社長が取締役を務める銀嶺食品工業(株) (福島県福島市、岡崎慎二社長) の「しのぶ 柚子の故里 (ゆずのさと)」写真Ⅱ。国産小麦粉と喜勝印刷が生産した花柚子を使用したカステラ状のケーキで、



仕上げに柚子リキユールを染み込ませた上品な洋菓子。東日本大震災後初めて、福島県産の食品が国際的な栄誉ある賞を受賞し

たとあつて地元では多くのメディアが取り上げている。

喜勝印刷の裏山には、現在千本超の花柚子を植栽。山林整備や害虫駆除など、久保社長をはじめ同社社員や久保社長の仲間が手作業で行っている。「恵まれた土壌で無農薬を貫き、携わった全ての人が真心込めて育てているから美味しいのは当たり前」と久保社長は胸を張る。今年以降、年間約一五トの生産を見込んでいる。

この復興支援事業は、単なる募金やボランティア活動とは一線を画し、福島と広島双方の市場に根付き、将来につながるものと位置付けられる。かつて、風評被害により先行きも見えず途方に暮れていた社員は、営業再開で活気を取り戻し、さらに、この度の受賞でモチベーションも上がっている。銀嶺食品工業の岡崎社長は「安全性が認められたことで風評被害を払拭し、福島復興のシンボルにしたい」

と話す。一〇〇〇キ以上離れた福島と広島で、多くの仲間が思いを一つにして取り組む六次産業化の道筋は一層太くなった。「被災者が生活できる環境を整えることは復興支援の基本だと思う。地方の中小企業でもこうして一つの会社の再建に力を貸せる。これをヒントに多くの経営者が、自分にできることが何かあるはず」と考え、実行してくれたら嬉しい「久保社長」。ちなみに、同事業は継続的に仲間を募集している。